

令和3年度 学校経営要綱

1 福島中学校区学校教育目標（9年間を見通した学校教育目標）

自らの考えを持ち、共に学びあい、心豊かにたくましく未来を切り拓く児童・生徒の育成

（1）教育目標に込めた意味・内容

福島中学校区の子ども達の良さを最大限に生かし、明るい未来の創造に向けて課題を解決していきけるように、「自らの将来をしっかりと見つめ、大いなる志（目標）を持って、その達成に向けて少しずつ、しかし着実に努力を重ねていくことができる児童、そして生徒の育成を9年間で行っていきたい。」という明確な目標とビジョンを共有するべく、この学校教育目標を設定した。そして、小中連携という「縦の絆」と家族や仲間そして地域の方々といった「横の絆」との中核にいる一人ひとりの児童、生徒と今後もまっすぐに向き合い、ともに学びを続けていきたい。

（2）教育目標設定の基盤

- ① 日本国憲法、教育基本法、学校教育法その他の関係諸法規の精神を尊重し、福岡県教育委員会、南筑後教育事務所及び八女市教育委員会の教育施策重点目標に示された事項に立脚する。
- ② 学校は「人間形成の場」ととらえ、目の前の子どもたちの実態や社会の実態・変動等を鑑み子どもたちが現在及び未来をたくましく生きぬくことができる総合的な人間力を備えることができる教育活動の創造を行う。
- ③ 「福岡県学校教育振興プラン」に基づき、地域の伝統や文化を大切にしながら、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進を行う。

2 本校教育がめざす姿

（1）めざす子ども像

- 【知育】切磋琢磨し、自ら学ぶ意欲と知性を身につけた子ども
- 【徳育】規則を尊重し、自・他ともに大切にできる子ども
- 【体育】目標を持ち、粘り強く取り組む子ども

（2）めざす学校像

- 学ぶ楽しさを味わえる学校
- あいさつや笑顔があふれる学校
- 保護者や地域と連携し、地域に根ざす学校

（3）めざす教師像

- 厳しさと優しさをもった指導力のある教師
- 教育のプロとして自らを磨き、常に前進する教師
- 社会性を持ち、子どもや保護者・地域から信頼される教師

（4）めざす地域像

- 「自然と歴史と人々が共生し、笑顔とふれあいあふれるまちづくり」
- コミュニティスクールや地域学校協働活動による地域と一体となった教育活動の推進
 - 相撲や伝統行事を通しての子どもの育成

3 学校経営の基本方針

- （1）公教育の立場に立ち、校長を中心とした調和と統一のある学校経営に努めると共に、職員の主体性・結果責任・同僚性を発揮した効果のある学校運営を行う。
- （2）学校・家庭・地域が連携連動し、多様な人材の活用を図り、地域の特性を生かした教育により、地域・社会を担う人材の育成を図る。
- （3）基礎的基本的な知識技能の定着を図るとともに、子どもたちが自ら追究する主体的な学習により、「学ぶ」ことの価値や楽しさを実感できる学習を追究する。
- （4）PDCAサイクルを確実に回し、特に目に見える評価に努めることによって、

全職員で目標達成を目指す。

〈学校経営の理念〉

- 学校は地域の**大樹**であり、**地域づくり人づくり**の中核である。
- **率先垂範・師弟同行**・・・子どもに求めることは、すべて自らしてみせる。
- **夢・志ある所に道は開ける**・・・目指すもの・姿を強く思い描く。
- **自らを磨く**・・・本物（人・もの・こと）との出会いで人は大きく成長する。

4 本校の教育課題と経営課題

(1) 教育課題

- ◎ 目標達成を目指して取り組む根気強さや忍耐力の育成。
- 協働して課題を解決したり、生活を改善したりしようとする態度の育成。
(対話力、協働性、自己を振り返る力：メタ認知)
- 主体性の育成。(思考力・判断力、責任感、人間関係調整力の向上、目標設定)
- 基礎・基本の内容および学び方の定着。(学力の個人差が大きい)

(2) 経営課題

- ◎ 重点目標達成に向けた職員の校務運営への積極的参画
(既存からの脱却、リーダーシップとフォロワーシップの発揮)
- 子どもの主体的な学びを促す授業力の充実(「内容ベース」の授業から「資質・能力ベース」の授業への改善)
- 児童理解の促進による学級経営力の向上(働き方改革によって時間的ゆとりを生み出す)
- 学校・家庭・地域の共通理解と連携による目標達成を目指した取組(CSの充実)

5 本年度の重点目標

(1) 中期重点目標

「課題を追究し続ける子ども」の育成

- ・ 自分で課題や目標をもつことができる。
- ・ 課題解決の見通しや計画を立てることができる。
- ・ 知恵を働かせ、友達と協働して、粘り強く解決に取り組むことができる。
- ・ 解決結果や過程を振り返り、新たな課題や目標を持つことができる。

(2) 本年度の重点目標

「やりとげる子ども」の育成 合い言葉：「峰の子ガッツ！」

「やりとげる」とは、目標を自己にとって価値あるものとして捉え、その達成に向けて困難に出会ってもくじけず、失敗を繰り返しながら粘り強く取り組み、やりとげることによって自己の成長を自覚し、さらに成長しようとする意欲を持った子どものことである。「やりとげる子ども」を育成するためには、個人としての心の成長を目指しながらも、自己の成長を確かめたり、振り返ったりする場の設定や、ともに伸びる仲間として励まし合い、協力し合う集団の存在や、努力を続ける児童を温かく見守ったり、励ましたりする周りの環境を整えることが大切になる。また、児童の発達段階を考えると、低学年では相手に喜んでもらったり、相手から認められたりするから努力するといった他律的な面が多く見られるが、高学年になるにつれて、自己の成長や将来の自分を考えたり、全体のことを考えたりして努力するといった自律的な面が多く見られるようになる。

(3) 重点目標達成のための取組の重点と内容

- ① 根気強く問題解決に取り組む学習(知育)
 - 根気強く学習を積み上げる(個人で努力する課題、家庭学習：必修課題と自主学習)
 - 対話を通して協働的に学ぶ(めあてとまとめ、見通し、追究、発表、振り返り)
- ② みんなで続けることによって創り上げる文化(徳育)

- ぼかぼか言葉（相手を大切にされた言葉使い）
- 学校や家庭・地域でのあいさつ
- ピカピカ掃除（だまって15分間掃除をする）
- ③ 困難を乗り越えるカベへの挑戦（体育）
 - 壁の設定
 - 逆上がり、一輪車、短縄、倒立、ドッジボールラリー、長縄 など

＜長峰スタンダード：峰の子が身に付けるべき行動様式＞

項目	合い言葉
学習	宿題は <u>まいにち</u>
言葉使い	言葉は <u>あたたかく</u>
あいさつ	挨拶は <u>げんきに</u>
掃除	掃除は <u>だまって</u>
かべ	かべは <u>あきらめない</u>

(4) 重点目標評価の観点

評価場面	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
教科学習 ・授業の中で ・家庭学習で	・めあてをつかみ、解決の見通しを持つ。	・めあて解決に向けて根気強く追究できる。	・自他の考えを交流し、より深く追究できる。
	・家庭学習（必修課題）を毎日やりとげる。 ・家庭学習（必修課題：平日と自主学習：休日）の継続。 ・家庭学習（自分に適した学習の選択・計画）の実践。		（1，2年生） （3，4年生） （5，6年生）
ぼかぼか言葉	・相手を呼ぶとき「さん」をつけて呼ぶことができる。	・相手に何かしてもらったら「ありがとう」が言える。	・自分が使えるぼかぼか言葉を増やす。
あいさつ	・あいさつの型を知り、元気な挨拶ができる。 （朝の集団登校で）	・相手の目を見て、立ち止まって挨拶ができる。 （校内や地域で）	・場に応じた挨拶ができる。
ピカピカ掃除	・時間までに掃除場所に1列に並んでめあてを立てたり振り返りをしたりできる。	・15分間だまって掃除ができる。	・新たな汚れを見つけて掃除したり、終わっていない友達を手伝ったりできる。
壁の克服	・毎日カベに取り組み、カベを乗り越えるための見通しをもつ。	・練習方法を工夫したり、友達と教え合ったりして、毎日粘り強く取り組むことができる。	・新しい技に挑戦したり、できない友達を手伝ったりしながらレベルアップできる。

(5) 具体的取組の評価の留意点

- ① 第1ステージ（4～7月）、第2ステージ（8～12月）、第3ステージ（1～3月）の各ステージでの評価規準に基づいて、評価改善を行う。特に、課題・改善策を明確にしたマネージメントを行う。
- ② 目標設定・共通理解→実践→評価→改善のサイクルを週、月単位で確実に回す。
 - ※ 4月評価規準の共通理解→PTA 総会説明→計画・実践・評価・改善のサイクルの確実な実施→3月まとめ
 - ※ 教師と児童の共通理解を図りながら、サイクルを回していく。
（めあてと振り返りの掲示）

- ③ 学級・学年・学校便り等で推進状況を知らせ、家庭と連携して取り組む。
 - ・ぽかぽか言葉、あいさつについては、家庭での実践・評価も行う。
 - ・PTAの成人教育委員会や学年・学級委員会での取組もキラキラ言葉とあいさつに重点化する。

6 本年度の経営の重点

(1) 経営の重点

※主体性・結果責任・同僚性を重視した経営を、明確なPDCAで改善する。

① 職員一人一人の参画意識（役割と責任）の向上

- 主任を中核とした組織運営（運営委員会、コーディネーター会議等）
- 目標達成にこだわる取組（PDCAサイクルの徹底）
- 面談の充実（日常的支援の充実）、OJTによる人材育成

② 同僚性を発揮する組織運営

- 主題研修の活性化（グループ討議等、主体的に研修に取り組むための工夫）
- リーダーシップとフォロワーシップの発揮（プロジェクト会議の機能化）
- ケース会議や支援推進班会議の充実（組織的対応の推進）

③ コミュニティースクール促進

- 学校運営協議会の機能化（会議の内容の共有化）
- 教育課程内の学校支援体制の整備拡充（GTの積極的活用）
- 教育課程外の子育て支援体制作り（老人クラブ、保護者の会、PTAと連携）

④ コロナ禍における児童の安全を第一に考えた教育活動の推進

- コロナウイルス感染防止に努め、児童の安全を第一に考えた教育環境の整備、教育活動の工夫等に努める。

(2) 本年度の学校経営の重点内容及び努力点

① 教育活動

ア 教育課程の編成の基本方針

- 基礎・基本の内容の定着並びに対話力・書く力の向上を図る単元の重点化
 - ・国語科における読みを深めるための対話活動や発問の工夫と指導時数の重点化
 - ・書く活動を重視した授業づくり
 - ・深い学びを実現する授業改善（分かっていないことに気づかせ、認識の飛躍を促す）
 - ・振り返りの時間の確保（内容面・学び方の面）
- やりとげる心を育てる道徳の時間の指導の充実
 - ・学習や生活場面との関連
 - ・児童の心に響くGTの効果的活用
- 特別活動における対話活動の充実
 - ・学級活動での対話力を生かした話し合い活動（毎月1回以上の学級会開催を目指す）
 - ・学級会の決定内容の実践後の振り返りを重視する。
- 特別活動・道徳の授業を中心としたキャリア教育の充実（推進計画の作成）
 - ・指導内容の重点化・関連的指導（やりとげる心の育成の面から）
 - ・キャリアパスポートの作成（やりとげた体験を重視）
- 地域行事・地域教材の積極的導入・連携
 - ・中島内蔵助顕彰祭への参加、中島内蔵助顕彰相撲大会の三者（学校・子ども会育成会・PTA）共同実施、ほっけんぎょう（教育課程外）への参加意識を高める事前指導
- 魅力ある総合的学習の再編
- 小中連携の各教科の系統表（重点指導）に基づいた指導
- 習熟度別学習（算数科を中心に）を配慮した配時
- 体験的活動の重視（感動体験、本物体験、仲間体験の充実：GTの積極的活用）
 - 特に忍耐力を高める活動を設定し、徹底して指導する。
 - （例：鍛錬遠足、持久走大会、カベへの挑戦 等）
- 協働活動や対話を通じたプログラミング学習
 - ・低学年：アンブラグド
 - ・中学年：タブレットを使った2次元の学習
 - ・高学年：タ

Brettを使った3次元の学習の工夫

- 第6学年の部落問題学習の充実（総合的学習の時間に位置づける。）
- 運動会の効率化（種目減、2 or 4 ブロック制：学級単位、午前中開催、開閉会式の簡略化 等）
- 特別支援学級においては、児童一人一人の学習特性や実態に応じた個別の教育課程を編成することとする。その際には、交流学級で指導した方が効果的な教科・内容等と特別支援学級で個別に指導した方が効果的な教科・内容を適切に判断し、編成するものとする。また、自立活動については、一人一人の児童の障害の状態に応じて27項目の中から必要な内容を選択する。

イ 指導体制や指導方法の工夫

- 地域学校協働活動の充実（コロナウイルス感染防止に配慮して）
 - ・ 学習支援ボランティアの導入（学習支援計画作成）
 - ・ 技能芸能教科やかべの克服についての技術的支援 等
 - ・ 読み聞かせ（親子読書）ボランティア等
 - ・ クラブ活動でのゲストティーチャーの導入
- 少人数指導、学年単位での習熟度別指導、交換授業の積極的推進
- 基本的な学習過程の明示と確立（学習スタイルの工夫）
 - ・ 基礎的基本的な知識・理解、技能の定着を図る学習
 - ・ 対話（熟議）を重視した学習
 - ・ 特別支援学級においては、「渡り」の授業の学習スタイルを確立する。また、ユニバーサルデザインに配慮した指導に努める。
- 学習評価の工夫による授業改善
 - ・ 児童による学習評価の工夫（年3回：ステージ毎）
 - ・ 保護者による授業評価（授業参観時：年2回）
 - ・ 児童による学期や各月の目標設定と振り返り（やりとげる心の育成の面から）

ウ 日常の諸教育活動の活性化

- ・ 集団づくりを中核に据えた人権同和教育の推進
- ・ 地域・家庭と連携し、特にPTAの生活指導委員会と連携して、「あいさつ」と「言葉使い」と「掃除・お手伝い」の実践強化期間を設定。
- ・ 児童の教育的ニーズに応じた、補充的・発展的な学習の充実と積み上げ
- ・ 歌声が響く学級、学校づくりのための歌唱指導の充実（GTの活用）
- ・ 学習規律等に関する共通理解・共通実践（決めたことを同一歩調で徹底する、小中連携スタディー7の実践）
- ・ 児童が主体的に取り組む学校行事や学級活動（学級会）、児童会活動の計画・実施
事前指導と事後指導を重視し、やりとげた充実感を味わわせる。

② 組織・運営（主体的参画を図る組織運営）

- 学年会、近接学年会（定例：金曜日）の活性化を図る組織運営
- 中堅リーダーを核とした組織の機能化と運営委員会の充実
 - ・ 各プロジェクトで重点目標達成に向けたPDCAサイクルを確実に回す。また、コーディネーター会議を随時開催し、組織としての機能化を図る。
 - ・ 毎月定例の運営委員会を設定し、目標や手立てを共通理解しながら、組織として機能するように努める。
- 子どもとしっかり向き合う時間を確保する組織・運営の効率化（週時程にゆとりを持たせる）
- 参画意識と組織マネジメント力の向上
 - ・ リーダーシップとフォロワーシップの明確化（誰が、いつまでに、何を、どうする）
 - ・ 共通理解・共通実践・主体的教育活動のための諸会議の重点化（プロジェクト会議：火曜日、連絡会：火曜日）
 - ・ 到達目標を基にした学級・各部の指導計画の整備と実施状況の見届け・評価
- 保護者・地域を巻き込んだ学校評価の充実（学校運営協議会・学校関係者評価の定期開催、保護者アンケートの実施：年2回）

③ 教育環境および家庭・地域・関係機関との連携

- 地域の教育資源の積極的活用
 - ・外部講師（G T）の積極的活用、地域施設の活用、地域教材の活用や開発
 - ※コロナウイルスの感染状況に応じて随時判断する。
 - 児童の主体的な活動を促す意図的・計画的な校内環境の工夫・改善を図る。
（教室、廊下等の掲示物・学級花壇等の管理・放送などの言語環境）
 - 意図的・計画的な言語環境の整備（聴かせるアナウンス力の向上）
 - 基本的な生活習慣の基盤となる健康安全教育の充実（食・保健・安全）
 - 保護者・地域との連携強化による生活習慣及び学習習慣(家庭学習)の改善
 - ・学校とともに、重点目標「やりとげる子ども」を「共育」する保護者会（学級懇談会やP T A講演会）の実現
 - ・青少年育成会（子ほめ運動）や各種ボランティア団体（見守り隊、峰クラブ）との連携した取組
- <働き方改革において>
- 夏季休業中の保護者面談を中止（希望者のみ1日実施）、成績シート配付の廃止
 - 学期末の成績処理のための特別時程を実施（年2回：2週間程度）
 - 定時退校日は18時、その他の日は原則19時までの退校を目指す。（P T A等の会議は除く）

④ 校内研修

- 国語科における読解力の育成を図る。
主題「確かな読みの力を育む国語科学習指導」
- 一般研修における外国語活動・外国語、プログラミング学習の指導法の向上
- 小中連携教育の推進（三校連携教育研修会の推進）
- 授業力の向上と基本的な指導技術向上のための日常的な授業交流
 - ・リクエスト研、若年研（心の友の会）等
- 教育公務員としての自覚をもつための不祥事防止研修会を毎月開催する。